



山行報告

★登山知識及び技術向上コース（鏡平）（9月17日～18日）

参加者 会員(健常者 4 名)

☆9月17日

この連休、天気予報は良くない。土曜日の夕方から19日にかけて雨が降り続く予報だ。雨の状況により現地で判断することとして、計画通りに実施する。

夜行バスは、少し早めに新穂高温泉に到着する。多少雲はあるものの、空は晴れている。笠ヶ岳方面もよく見える。登山計画書を提出し、朝食を摂り、用を済ませて出発する。小池新道の登山口までは、左俣林道を歩くことになる。



錫杖岳が見えた

蒲田川の左俣谷は、澄んだきれいな水が流れている。穴毛谷方面が見えなくなり、中崎山と抜戸岳から伸びる尾根の間を歩く。読図というとすぐにコンパスが必要と思う人もいるが、現在地を特定できないとコンパスがあっても活用が難しい。今歩いてきたところの周囲の地形変化を考えると、ここは風穴の近くですと言ったら、近くの岩に目立たない「風穴」を知らせる看板があった。これは偶然だけど、周囲の地

形と地図を見比べて、現在地を特定することがまずは一番大切なこと。少し勉強になっただろうか？

中崎橋を渡って、右岸を歩く。振り返ると、錫杖岳の山頂付近が見える。さらに行くと、笠新道の登山口がある。ここには水場もあり、多くの人たちが休憩していた。さらに歩くと、わさび平小屋に着く。なかなか立派で良い小屋のようだ。

鏡平方面に青空が広がる(Iさん撮影)



すばらしい天気の下で、さらに林道を歩く。苔むした岩の上を小さな沢の水が流れている。1/8 秒程度の遅いシャッター速度で、手持ち撮影する。どうしてもぶれてしまうが、水の流れを白い線で表現するには、そのくらいのシャッター速度でないと難しい。

林道が左に曲がると、これから登る鏡平方面が見えてくる。大ノマ岳や弓折岳も見えている。奥丸山への分岐の橋には、マウンテンバイクが固定されている。ここにバイクをおいて、どこかの山を登っているのだろうか？

小池新道は比較的緩い登りだ。しかし、確実

に高度を稼いでいく。ゴロ帯に着くと、槍ヶ岳が見えるようになる。こちら側から見ると、手前の飛騨乗越付近の尾根が邪魔して穂先の先端付近しか見えない。しかも、近いので、あまりとがっていない。東側から見るとがった槍ヶ岳のイメージしかない、とがっかりするようだ。まあ、見る角度で山はいろいろなので、これも槍ヶ岳の一つの姿なので、今までのイメージに追加するだけで良いのではないかと思う。

西穂から涸沢岳までの稜線も見えている。焼岳も見えている。ただ、空は高層雲に覆われ始めてきた。鏡池に着くまで、槍穂高の姿を見せてくれるだろうか？



秩父沢を渡ったところで、少し長い休憩を取る。ここも、槍穂高の展望がすばらしい。乗鞍岳も見えていた。さらに登ると、イタドリが原



に着く。風穴は気がつかずに通過した。さらに登っていく。秩父小沢だろうか涸れ沢の岩の上でオコジョを発見。2匹が元気に走り回っている。写真を撮りたかったが、止まってくれず、岩の上に出たり隠れたり、速いスピードで走り

回っている、撮れなかった。それでも、ひさしぶりにオコジョに出会えて良かった。

その後も、じわりじわりと上に登っていく。シシウドが原手前でNさんが足をつってしまったが、すぐに冷湿布を張って元気になる。Iさんがザックをシシウドが原において、迎えに行き、ザックを背負って登ってくれる。頼もしい限りだ。



シシウドが原からは、北穂高岳も見えてきた。しかし、すぐに槍穂高連峰は雲に隠れてしまった。お昼を食べて出発する。鏡平山荘まではあと1時間少々。トラバース気味に登っていく。



傾斜が落ちてきて、山荘が見えるかと思ったが、なかなか見えない。ポツポツと雨が当たるようになってきたが、すぐに止む。そして、ようやく鏡池に到着する。残念ながら槍穂高は雲の中に姿を隠して見えなかった。止んでいた雨も再び降り始めた。しかし、鏡平山荘は、すぐそこだ。受付を済ませて中に入る。今回は、キャンセルが多く出たことで、6人部屋の個室を4人で使って良いとのこと。とてもありがたい。

夜はいつもの通り、同宿の人たちと歌を歌って一期一会のひとときを楽しむ。



晴れると槍ヶ岳を写す鏡池

☆9月18日

夜半から激しい雨音がしていた。天気予報は当たったようだ。朝、山小屋の衛星放送を見ると、高山市は夕方には曇りになるようだ。しかし、それまでは本降りのようで、大雨・洪水・雷注意報が出ている。

私は、行こうと思えば行けないことはないだろうと思っていたが、女性陣はもうすっかりこのまま帰って温泉に入る気持ちでいる。鏡平山荘の方に、登山道の様子を聞くと、笠新道などは問題ないが、とにかく吹きさらしの稜線が厳しいはずだとのこと。昨日登ってきた道も、沢が増水して危険はあるとのこと。

遮るものもなく、逃げ道もない稜線を風雨にさらされながら4時間以上歩くのは、体調の悪くなる人が出る可能性も高いため、このまま下山することとした。ツアーできた人たちは、この小屋に連泊するらしい。今日帰ることにした私たちをうらやましいと思っていた人もいたようだ。

ゆっくり朝食を食べて下山を始める。やはり雨脚はかなり強い。それでも風がないので、問題なく下っていく。昨日、一緒に歌を歌った人たちに挨拶をして追い越していく。増水して流

れの激しい沢が2つほどあった。足を取られたら大変なことになるので、慎重に下っていく。秩父沢は橋がしっかり架かっている問題はなかったが、増水して激しい流れになっていた。

何度か休憩を交えつつ、小池新道を終えて林道に出る。そこでは休憩せず、わさび平小屋まで行くことにする。わさび平小屋では屋根のある所で休憩できてとてもありがたかった。着いて少しすると、土砂降りの雨になった。屋根の下で休憩していると、昨日小屋と一緒に歌を歌った人（登山道で会った人とは別の人たち）に会う。とても楽しかったとお礼を言われてしまう。

蒲田川左俣谷は、泥水となった濁流がごうごうと激しい音を立てている。1泊2日で帰る結果になってしまっていて残念だが、強い雨の中を無事に下山できて良かった。中崎山荘奥飛騨の湯に入って暖まり、帰りのバスに乗り込んだ。

記：網干



鏡平山荘に到着

コースタイム

9/17 新穂高温泉(6:20)…わさび平小屋(7:50-8:00)…秩父沢(9:20-9:50)…シシウドが原(11:35-12:10)…鏡平山荘(13:20)

9/18 鏡平山荘(7:15)…わさび平小屋(9:45-10:05)…新穂高温泉(11:00)

★八幡平(9月24日～25日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

☆9月24日

前の晩、東京を出発する夜行バスで盛岡に到着する。八幡平まで行くバスの発車時間まで3時間以上ある。持ってきたおにぎりを食べたり、モーニングサービスで朝食を食べたりする。今朝、東京を出発して、盛岡に到着したNさんと合流し、八幡平自然散策バスに乗る。

2時間近くバスに乗り、八幡平頂上を過ぎて、茶臼口で下車する。登山者の多くは、ここで下車した。これから登る茶臼岳方面が見えている。



登山道を登るが、周囲は霧に包まれている。それでも、紅葉した山腹が美しく、楽しませてくれる。茶臼岳は直接登らず、山腹をトラバースして茶臼山荘まで行く。ここで昼食とする。



茶臼岳は「360度の展望」と昭文社の地図に書かれている。あまり天気も良くないのでどうしようかと迷っていたが、近くなので行ってみることにする。行ってみたら大正解。八幡平から岩手山につながる尾根が一望でき、すばらしい展望が広がっている。ここまで登ってきた尾根を見下ろすと、紅葉がとてもきれいだった。岩手山は山頂を雲に隠していたが、八幡平や畚岳

(もっこだけ)、大深岳などの尾根はよく見えている。山腹には、アオモリトドマツの林が広がる。遠くには、秋田駒ヶ岳もわずかだが見えていた。

お母さんと息子さんで来ていた方も茶臼岳山頂にいたが、彼らは避難小屋泊まりらしい。今日は八幡沼の畔にある陵雲荘らしい。茶臼山荘もきれいだったが、陵雲荘は暖炉もあるらしい。私も以前泊まったことがあるが、もうすっかり忘れていた。



茶臼山荘まで戻り、樹林帯の道に行く。所々ぬかるんでいる。紅葉したウルシやガマズミ、少しだけナナカマドもある。赤い実もたくさんある。

黒谷地湿原は草紅葉だ。エゾリンドウが所々に咲いている。熊の泉で休憩する。時間は予定よりも少し遅れている。日が沈む時間が早くなってきているので、あまりのんびりはできない。源太森は、山頂だけ確認に行く。これから向かう八幡沼がよく見えていた。



湿原に出るとチングルマが赤く紅葉してい

た。湿原の草紅葉が美しい。池塘もたくさんある。陵雲荘を過ぎ、少し登ると展望台だ。八幡沼と周辺の湿原、そして陵雲荘がとてもよく見える。すばらしい風景だ。



八幡沼と陵雲荘

この付近はすでに遊歩道。ハイヒールの人も来るらしい。八幡平の山頂は、本当にここが山頂なのかと思うくらいの平坦な場所。集合写真を撮ってもらった後は、展望台に上がる。少し遠くに見えていた山は森吉山ではないかと思われた。



八幡平頂上にて

ここから長沼方面への道に進んでしまうと時間がかかってしまうので、分岐点を間違えないように慎重に行く。山頂から2分ほど遊歩道を歩いて右側にある小さな道に入る。しばらく緩やかに下ると田代沼に到着した。間違っていないかったようだ。

ここからの道は、滑りやすい石がたくさんあり、えぐれているところも多く、とても歩きにくい。それでも時々アスピーテラインを走る車の音が近くに聞こえ、現在位置を確かめる。そんな時、右側の樹林帯でがさごそ音がする。熊

かもしれないとみんなに伝える。少し後ろを歩いていたNさんが駆けつけてきた。ここからAさんとNさんが大声で歌を歌ってくれる。熊さんも驚いて逃げたことでしょう。



夕焼けと森吉山

なかなか大深温泉に着かないと思っていたが、遠くに茜色に染まった雲と山が見えた。鳥海山ではないかと思ったが、たぶん森吉山だろう。暗くなりかけているが、山は突然すばらしい光景をプレゼントしてくれる。

美しさに感動して歩いていると、左側に車道が見えてきた。そして、ようやく車道に飛び出した。女性陣はみんな抱きついて喜んでいる。予想に反して厳しかった道を乗り越えてきたことへの感動だろう。とにかく無事に山道を終えて良かった。



茜色に染まる空とシルエットの木

茜色に染まる空をバックに、車道を歩いてふけの湯に下る。すっかり暗くなった18時前に到着。すぐに温泉に入り、食堂へと向かった。すばらしい料理が待っていてくれた。

☆9月25日

おいしい朝食を摂って出発する。今日も八幡平山頂方面は厚い雲の中だ。しかし、反対側には青空も見えている。

ふけの湯の野天風呂を見ながら歩いて行く。野趣満点で、次に来たときには必ず入ることにしよう。



山の一軒家・ふけの湯

大沼温泉への分岐を過ぎるとすぐに大谷地の湿原だ。ここも草紅葉が美しい。ここですぐに右へ曲がれば良かったが、標識が熊にかまれたのか爪を研がれたためなのか行き先が分からなくなっていたので、まっすぐに進んだ。まっすぐ進んだことで紅葉を楽しめたが、この道は昭文社の地図ではわかりにくい、蛇沢沼方面に行く道だ。すぐに引き返し、長沼への道に行く。



長沼

美しいブナの林を楽しみながら登っていく。宿で一緒だった単独の女性が引き返してきた。長沼はすぐそこだとのこと。長沼は少し細長い。ここで少し休憩して、来た道を引き返す。

大谷地を過ぎた分岐で、大沼方面への道を行

く。樹林の美しい道を緩やかに下っていく。右の方から「とんとんとん」という音が聞こえてくるが、地熱発電所の音だろうか？ さらに少し行くと、泥火山があった。泥の中から熱い温泉が、ぼこぼこ吹き出している。あまり近くと熱い泥がかかるので手すりに近づきすぎないように注意書きがある。初めて見るおもしろい現象を楽しみ、少し歩くと大沼の前の車道に出る。



枝を広げるブナ

大沼の遊歩道を一周し、ランチ（うどん）と温泉セットで千円というコースを購入してまずは温泉に入る。昼食を済ませ、田沢湖行きのバスを待つ。バスの中では運転手さんがいろいろ説明をしてくれたようだが、爆睡状態でいつの間にか秋田駒が左手に見えるところに来ていた。



大沼にて

田沢湖からは全席指定のコマチには乗れず、各駅停車で盛岡駅に行き、盛岡市発の新幹線に乗って上野に向かった。思ったよりも充実した山行を楽しめた2日間でした。 記：網干

コースタイム

9/24 茶臼口(11:25)…茶臼山荘(12:15 茶臼岳往復 13:15)…源太森(14:50-15:00)…八幡平(15:30-15:40)…車

道(17:35)…ふけの湯(17:55)

9/25 ふけの湯(8:30)…長沼(9:30-10:00)…大沼(11:20)

★巻機山(10月8日～9日)

参加者 会員(健常者4名)

☆10月8日

今回も週末は雨の予報になっている。天気予報は月曜日が曇りになっている。ただ、雨上がりはスッキリ晴れる場合は良いが、霧に包まれたまま、視界が良くないこともある。逆に雨が降り始める前は、遠くまで視界が利き好展望になる時が多い。参加メンバーの都合も確認し、予定通り土・日で実施することとする。

六日町の駅に着くと雨が降り始めた。私はザックから雨具を出そうとするが、雨具が見当たらない。雨具をザックに入れ忘れたのだ。他の人たちに迷惑をかけるので、3人で行ってもらい、私はこのまま引き返そうと考えた。しかし、みなさんから、せっかく新幹線まで使ったここまで来たのに、帰るのはもったいないということで、雨具を購入して山に行くことにする。タクシーでイオンまで行き、10時の開店を待って雨具を購入し、タクシーで登山口まで行く。



上越のmatterホルン大源太山

六日町は雨が降ったり止んだりだったが、巻機山が近づくとつれて、道路も乾き、上空にはわずかに青空も見える。やはり、越後湯沢は日

本海側ではあるが、南風が山にぶつかり、下降気流になるためか、他の新潟県の地域とは違う天気になるようだ。



ブナの林を登る

桜坂駐車場でタクシーを下車し、井戸尾根の登山道を登る。三合目、四合目と順調に登っていく。ブナの白い樹皮がまぶしい。一面のブナ林だ。木の間からは、鋭くとがった上越のmatterホルンと呼ばれる大源太山が見える。視界も良くますますの天気だ。

登山口から1時間20分。昭文社のコースタイムどおり、五合目に到着。山頂の稜線と米子沢の流れがよく見える。別パーティーの二人がうどんを作っていた。我々も昼食タイムとする。



紅葉と展望のすばらしい8合目付近を登る

五合目を過ぎてもブナ林は続く。登山道は傾斜が落ち、広い斜面を緩やかに登っている。六

合目に到着する。割引岳から伸びる天狗尾根の末端にある天狗岩がすばらしい迫力で聳えている。その隣には、ヌクビ沢が流れている。このコースもいつか登ってみたいものだ。



谷川連峰を背に

この頃から雨がポツポツ降り出した。私は新品の雨具を身につける。しかし、雨具を付けると暑い。雨はすぐに止んだので雨具の上着を脱ぐ。七合目を過ぎ、さらに登ると、次第に木々の高さが低くなる。少し登ると、紅葉のきれいな場所に出る。展望もすばらしい。ここが八合目だった。谷川岳や一ノ倉岳は雲に隠れていたが、とがった万太郎山がよく見える。仙ノ倉山と平標山は雲に隠れていた。その時は気がつかなかったが、帰宅後調べたら、苗場山も見えていた。



二七巻機山に到着

八合目付近で雨がまた降り出したが、雨具を付けずに登る。雨具を脱ぐと雨が降るので、Nさんが犠牲になって着ていてくれる。その後、雨は完全に止んだ。二セ巻機への登りにかかる。八合目付近を振り返ると、尾根の紅葉がすばらしい。もう背の高い樹木はない。展望もほしい

ままだ。日本海側は雨が降っているのだろう、黒い雲に覆われているが、ちょうど巻機山付近を境に、太平洋側は青空がかなり見える。

ようやく二セ巻機に着く。巻機山山頂は雲に隠れていた。しかし、少し下って行くと、みるみるうちに霧が晴れ、草紅葉が美しい巻機山山頂が見えてきた。避難小屋も見えてきた。



巻機山避難小屋

明日は雨になる可能性が高いので、少々時間的には遅いが、今日のうちに山頂を往復することにする。避難小屋にシュラフやコンロなどを置き、軽い荷物で山頂に向かう。少し上がると、展望はさらに広がる。柄沢山方面にかかる滝雲もよく見え、その向こうには朝日岳、笠ヶ岳が見えていた。池塘を過ぎ、さらに一登りすると割引岳との分岐に出る。そこに山頂標識があった。一応、ここで集合写真を撮ることにする。山頂の反対側には、越後三山がよく見えていた。ただ、そちら側はどんよりと雲がかかっていた。



展望のすばらしい広い尾根を登る

山頂標識からさらに最高点まで行ってみる。草紅葉の草原に付けられた緩やかな道に行く。3つの池塘があり、最高点側から見ると、人が

笑っているように見える。そこを過ぎて、最後の登りを登り切ると、そこが最高点だった。小さなケルンがある。一番高いところは自然保護の関係で行かれないらしい。写真を撮って下山にかかる。



避難小屋に帰り着く頃、雨が降り始めてきた。すぐに水場まで行き、水を汲んでくる。避難小屋は、我々4人と、単独の人、2人パーティーの7人だった。3人は2階に寝て、我々は1階で寝る。トイレはバイオ式でとてもきれいだ。拭いた紙は、自分で持ち帰るのがここのルール。夜のひとときを楽しみ、いつしかシュラフに潜り込んで寝ていた。



☆10月9日

夜半から雨音が強まっていた。明け方は、小降りになっていたが、まだ降っている。朝食を済ませ、今日はこのまま帰ることにする。小屋の外から2階を見ると、冬季用の出入り口が2階にあった。

今日は足がある程度そろったメンバーなので、下りも順調に下る。ほとんど霧で視界がなかったが、八合目の上で一時視界が晴れた。美しい紅葉が眼前に広がっていた。もしかしたら、昨日よりもしっとりした色合いが出て美しかったかもしれない。写真を撮っておくべきだったかなと、少し悔やまれる。

六合目、五合目と順調に下る。四合目付近で、後ろのメンバーを待っていたら、ネズミを3匹ほど発見。山でネズミを見つけることは非常に珍しい。ちょこまか動くので、写真は撮れなかった。

避難小屋からちょうど3時間で桜坂駐車場に到着。タクシーを呼び、水たまりで登山靴や雨具を洗って待つ。

来るときは新幹線だったが、帰りは鈍行。眠りに落ちたり、仲間と語り合ったりしながら、長い電車の旅を楽しみつつ帰路についた。

記：網干



コースタイム

10/8 桜坂駐車場(10:50)…四合目(11:30-11:40)…五合目(12:10-12:20)…展望台(13:05-13:25)…ニセ巻機(15:30)…巻機山避難小屋(15:40-15:50)…巻機山山頂ケルン(16:30)…避難小屋(17:00)

10/9 避難小屋(7:25)…桜坂駐車場(10:25)

★川苔山(10月16日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

今回は、久しぶりに天気を心配しないですむ登山になりそうだ。参加人数も10人と比較的多い。古くからいる会員と新しい会員が、和気藹々と楽しむ、いつもながらの山仲間アルプの雰囲気を楽しめたようだ。

今回は、バスを使わない駅から登山。鳩ノ巣駅に集合し、自己紹介をして出発する。

まずはコンクリートの道。なかなかの急登だ。標高もぐんぐん上がる。民家の脇で実を付けていたムラサキシキブ。日陰と日当たりでは、全く実の色が違う。日陰では紫色。日が当たるとピンク色。今までは種類や土地の性質が違うのだと思っていたが、全くの勘違いだった。



ムラサキシキブ

杉の植林帯をぐんぐん登っていく。少し樹林がまばらなところでは、隣の本仁田山が見える。この登山道を登りに使う人は少ない。おかげで、かなり上部までは、ほとんど人には会わなかった。多くの人たちは、川乗橋からのコースを上り、この鳩ノ巣駅へのルートを下りに使う。川乗橋からのコースは変化があって、とても楽しいコースだが、視覚障害者の人にとっては、危険箇所が多数ある。できれば、使いたくないコースだ。しかし、今回は登りも下りも、標高差は1,000m以上。とてもハードなコースだ。

大根ノ山の神に到着する。10年前の5月、

ここから大ダワに行くコースを登ったが、そこから先の登山道が悪く一部の人たちを除いて舟井戸で引き返した。その時は、小学3年生だったYちゃんも元気に登ったことを思い出す。



トラバース気味の登山道を歩く

大根ノ山の神からは、杉ノ尾根の右側をトラバースしながら登っていく。杉林はまだまだ続く。展望もない単調な道が続く。今回が2回目の参加となるSさんもAさんのサポートをしている。たぶん、今回が初めてのサポートのはずだ。Aさんのアドバイスを受けながら、しっかりサポートしている。大ダワへの分岐からは、Iさんが初めてのサポートにチャレンジ。視覚障害者のAさんやKさんから多くのことを学べたようだ。とてもうれしい。



東の肩から山頂を目指す

舟井戸からは、ようやく雑木林になる。少しだが色づき始めている。登山道も比較的歩きやすくなった。しかし、12時半を回り、おなかにはぺこぺこ状態。みんな最後の力を振り絞ってがんばっている。東の肩に着くと、尾根の反対側が見えるようになる。山頂もすぐそこだ。

歩きやすい道を上って山頂に到着すると、雲取山方面の展望が広がる。みんなが見たいだろうと思う方角にある木を伐採したのだろう。富士山方面も切られていた。しかし、今日は富士山は見えない。



川苔山山頂から見た雲取山(中央奥)方面

雲取山方面は、セツ石山、鷹ノ巣山、天祖山、長沢山などが見え、さらに奥には飛龍山や大菩薩嶺方面も見えていた。まずは、山頂で腹ごしらえ。思い思いに昼食を摂る。ほぼここまで、計画通りの時間。Aさんは、話し声を聞いて、知り合いが近くにいることに気づく。目が見えなくても耳の感度は抜群だ。いや、見えないからこそかもしれない。



川苔山山頂にて

日が短くなっているので、あまりゆっくりはできない。山頂で集合写真を撮って下山にかかる。東の肩に戻り、曲ヶ谷北峰を登り、赤杭尾根の下山が始まる。最初はなかなか悪い道だ。しかし、難なくクリア。次第に防火帯の歩きやすい道になる。遠くには都心も見える。

下りは登り以上に長いコース。順調に下るが、なかなか赤杭山に着かない。しばらく林道のよ

うな作業道を下り、さらに山道を下っていくと、ようやく赤杭山を巻くようになる。この下りは、ある程度ペースを上げないと途中で暗くなる心配があったので、Aさんのサポートは私が全て引き受ける。下りが得意なAさんはしっかり着いてくる。

16時に川井分岐に到着。ここからやや危険な山腹のトラバースを行い、ぐんぐん下っていく。夕日は周囲の木々を金色に染める。そして、山の向こうに見えなくなった。

日は沈んだがまだ明かりは十分にある。木々の向こうに家の屋根が見えるようになる。無事に麓の車道に到着。ここから歩いて古里駅に到着。みんなとても元気に下ってきた。M君もすっかり力が付いて、翌日も筋肉痛にならなかったそう。若い力に乾杯

(^_^) / 口☆口 \ (^_^) !

記：網干



マムシグサの実

《参加者の感想》

久しぶりの参加となりました。始めは、暑いくらいで長男も汗だくでしたが、徐々に空気が冷たくなり秋の気配を感じ…、山頂は冬を思わせるような冷たい風が吹き、寒いほどでした。

標高差もあり距離も長い山行ならではの思ひます。西から雲が迫っている感じでしたが、山頂からの雲取山は流石、いい姿をみせてくれました。

また、下山途中、夕日が山影に落ちる瞬間の、綺麗な夕日に照らされました。それはそれはあたたかな、深いオレンジ色でした。狭くて長い登山道を真剣に下山してきた長男を支えてく

ださったお仲間にお礼を言うと「楽しかったですよ」とのお返事が、嬉しかったです。長男もまた一つ、自信につながったと思います。

駅で一気に炭酸ジュースを飲み干しておりました！気持ちがいいです(笑)

今回も山からたくさん幸せないただき物がありました。ありがとうございました。

★榎ノ尾山(10月30日)

参加者 会員(障害者2名、健常者3名)

今日は、朝のうち雨が残るが、午後からは晴れ間も出る予報だった。家を出たのは5時、雨はもう上がっていた。新宿駅に集まったのは4人だけ。私が一番遅かった。早朝は電車本数が少ないので、1本前だと15分以上早く家を出なければならぬので辛いところ。でも少人数なので、動きは速い。計画より1本早い電車に乗車する。

上野原駅でもう一人の参加者Sさんと合流する。今回はサポート不足ということを知りつけ、駆けつけてくれた。とてもありがたい。

上野原駅から、延々1時間45分バスに乗り、松姫峠で下車する。私はぐっすり眠ったが、女性二人は話が尽きないようで、最初から最後まで話し続けていた。



鶴寝山にて

霧に包まれた松姫峠でトイレを済ませ出発する。緩やかに登っていくと、以前個人山行で登ったことのある鶴寝山に到着する。立派な山

記：F.Iさん

コースタイム

鳩ノ巣駅(8:55)…大根ノ山の神(9:55-10:05)…大ダワへの分岐(11:40-11:50)…舟井戸(12:30)…川苔山(13:05-13:40)…川井分岐(16:00-16:10)…古里駅(17:00)

頂標識が立っている。少し離れたところには、木に針金で吊されたような小さな標識もある。きれいな標識も良いけど、小さな標識も味わいがある。



霧の中を歩く

稜線は緩やかなアップダウンが続く。とにかくすたすた歩けるところが多い。所々、落ち葉が敷き詰められたところが現れる。きれいな落ち葉の絨毯だ。



落ち葉の絨毯

鶴寝山からは巨樹の道と日向の道に分かれるが、尾根のすぐ隣に別の道が見える。私たちは巨樹の道を歩いたが、霧のせいか巨樹は見当たらなかった。

小菅の湯に下る分岐（山沢入りのヌタ）から、一番左の登山道を歩く。しばらくトラバースし、大マテイ山山頂への分岐を過ぎてさらに歩く。少し開けた大ダワで昼食タイムとする。霧の日は何も風景が見えないが、蜘蛛の糸には無数の水滴が付いて美しい。遠くの見えない日は、近くにある美しいものを探そう。



蜘蛛の糸に付いた水滴

牛の寝通りは、その名の通り、平坦な尾根が続く。眠くなってきたという声も出るほど、変化は少ない。少し登りが続くようになると、榎ノ尾山に到着する。ここまで非常に順調にきている。コースタイムも計画した時間を10分程度遅れるくらい。今日は、暗くなる前に福ちゃん荘に着きたいので、休みもほどほどに出発する。



榎ノ尾山にて

少し歩いて行くと霧が晴れ始めた。人の心は不思議なもの。どんなに美しいものでも長く見ていると飽きる。逆に何の変哲のないものでも、何も見えない中で出会うととてもきれいなものに見える。わずかの間だったが霧が晴れたおかげで、美しく紅葉した木々が見られた。き

っと自然からの小さなプレゼントだろう。



真っ赤な紅葉

尾根は次第に急になり、登りが続くようになる。今日一番の登りだ。玉蝶山（なんと読むのだろうか？）の山頂脇を通り、さらに登りが急になる。再び霧に包まれながらも、尾根の上に分岐を示す標識が現れた。石丸峠手前の小金沢山方面への分岐だ。草原の石丸峠は展望が良いはずだが、今日は霧で何も見えない。しかも風が吹いてきて寒いので、早々に出発する。その前にタクシー会社に電話して、福ちゃん荘までタクシーを依頼する。



霧の石丸峠にて(1さん撮影)

熊沢山を越え、滑りやすい道を慎重に下って大菩薩峠に到着！ここまで来ればもう安心。まだ明るい。介山荘の方もまだいた。

あとは、林道を小走りに下って、計画より5分早く福ちゃん荘に到着した。程なくタクシーが到着。「もっと下まで歩いてほしかった」と愚痴の多い運転手さんだった。それでも、座っているだけで駅まで運んでくれる。ありがたいことだ。

もう周囲はすっかり暗い。塩山の町の明かりがとてもきれいだった。 記：網干

コースタイム

★能岳(11月13日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

今日は、素晴らしい天気恵まれ、ぽかぽか陽気だ。風もなく、小春日和の中で、軽い登山を楽しむことができた。

上野原駅に着き、予定のバスを待つが、予定より15分ほど早いバスに乗れるとのこと。これはラッキー。バスも貸し切り状態。我々以外に乗る人はいない。バスの中から富士山の頭が見えた。

大堀でバスを降り、自己紹介の後、登山口に向けて車道を登る。振り返ると富士山が少しずつ見えるようになってきた。上野原中学校のすぐ前が登山口。まずは八重山を目指す。八重山は、昭文社の地図では括弧書きで、能竹山と向風山の二つの名前が付いているところではないかと思う。



山道を歩く

登っていくと、「視覚の森コース」と「聴覚・嗅覚・触覚の森コース」の分岐に到着。今回は展望が良さそうなので、視覚の森コースを登ることとする。この付近は植林したのではないかと思うが、紅葉した木々や桜が多い。少し登る

松姫峠(10:25)…鶴寝山(10:45-10:50)…大ダワ(11:45-12:15)…榎ノ尾山(13:35-13:45)…石丸峠(15:20-15:25)…大菩薩峠(16:00-16:10)…福ちゃん荘(16:45)

とベンチがあるので、休憩する。丹沢の山々も見えてきた。



展望台から見た富士山

さらに登っていくと階段が現れ、展望の良さそうなところが見えてくる。しっかりとした五角形の屋根のある展望台に到着。五感を働かせるために五角形なのだそう。



八重山展望台にて

展望台からは、富士山、丹沢の山々、そして道志、三ツ峠、扇山、権現山、近くの八重山、そして陣馬山が見える。いつもは低く感じる陣馬山もここから見るとひととき高く見える。時間的には早いですが、ここで昼食タイムとする。ぽかぽか陽気で本当に暖かい日だ。その影響もあり、展望台を出発する頃には、富士山はかなり霞がかかって、はっきり見えなくなっていた。

展望台の近くには、音色の良い鐘がある。M

君が何度も突いていた。そこから階段を登ることになる。登り着いたところは八重山ではなかった。小さなピークから急角度で下り、さらに登り直して着いたピークが八重山だった。八重山は、この周辺の土地を保有していた水越八重さんが、「世話になったふるさとや子どもたちのために役立ててほしい」と寄付して下さった土地にある山のため、八重さんの名前から付けたそうだ。今回は、展望台で休憩してすぐなので、山頂は通り過ぎるだけとなる。2パーティーほどが休憩していた。



八重山を過ぎた頃から紅葉が美しくなる。赤や黄色に色づいた木々を楽しみながら登る。登り着いた能岳は展望はない。「この山に登った人は脳が良くなる」という言い伝えがあったのだろうか？ 期待しないが、できるだけ脳は劣化しないでほしいところだ。



聖武連山と書かれた方に下る。下りはやや急なところがあるが、順調に下っていく。木を伐採して10個ほど切り株のある所で休憩する。その後、そのまま真っすぐ進んだが、どうも不

明瞭で道がない様子。すぐに引き返して探すと、切り株の手前のところから山腹を巻き気味に登山道が付けられていた。あとは、順調に登山道を下っていく。



車道に出て向風を過ぎ、新井のバス停に到着する。14時15分着。予定より30分ほど早い。すぐにバスが来た。しかも新井始発。とんとん拍子に事が運び、高尾駅に着いたのが15時少し前。予定より1時間半も早い。誰からともなく、お茶を飲んで帰りましょうということになり、2時間ほど盛り上がり、帰途についた。

記：網干



《参加者の感想》

昨日は本当に、素晴らしい1日でした。気候も、紅葉も、山の様相も、雰囲気も、完璧?? これを年間予定で組まれていたなんて！感動ものです。

ゆっくり静かに秋の山を歩く事がどんなに素晴らしく、有難いか…。五感でそれを感じました。

秋の日差しを浴びた紅葉の美しさ、澄んだ空

気、落ち葉の香り、葉が落ちる音…長男は富士山を前にして食べたビッグサイズのカップラーメンが、とても美味しかったそうです。

五感で感じる山…写真アップが楽しみです??
記：F.Iさん

コースタイム

大堀バス停(10:10)…八重山展望台(11:10-11:55)…八重山(12:15)…能岳(12:30-12:50)…向風(13:50)…新井(14:15)

※雨のため岩登り技術講習会(日和田山)が、参加者不在のため登山知識及び技術向上コース(苗場山)が中止となりました。

「親子で目指そう富士登山」感想文(第4回硫黄岳)提出順

初めて山小屋に泊まって、ザコ寝すると聞いていて、泊まってみると、ちゃんとふとんもありよかったです。朝すごく寒かったけど、すぐに暑くなりました。頂上についた時ふん火口の大きさにびっくりしました。花も、地上の物とはちがっていました。川の水も冷たくて気持ちがよかったです。
A.O君

「親子で目指そう富士登山」感想文(第5回富士山)提出順

私はついに日本一高い山に登れると思うと、わくわくしていました。五合目でつえを買って登り始めました。その時、すごい雨がふっていて、さむかったです。新七合目の小屋は山小屋らしい狭いところでした。ここまではあまりきついとは思いませんでした。

次の日、雨が少しだけふっている中、朝早くに出発したので、とてもつかれました。八合目あたりで頭が少し痛くなりました。登っていくと痛さは増していきました。高山病になってしまったのです。休けいを取り、朝ごはんにもらったパンを食べ、少しエネルギーをつけました。高山病の原因はおそらく朝ごはんを食べないで登ったからだと思います。その後は父に荷物を持ってもらい、エネルギーと酸素を補きゅうしながら、ようやく頂上へ着きました。本で読んだ気象レーダーをせっかくなのでみたいと思い、剣が峰へ行きました。風が強くとて寒かったのですが、気象レーダーを見て、3,776mの地点に立つことができました。とてもうれしかったです。下っていくと高山病も治っていきました。富士山はきつかったですが、日本一高い所に立てたことは自分でもすごいことだと思います。

S.Iさん

山頂まであと少しってところで吐いて、そこでリタイアしてしまったのが悔しかった。どうせあそこまで行ったなら山頂まで行きたかった。富士山の七合目のカレーのライスの方が、そんなにおいしくなかった。(雨水使ってるらしい)

吐いた原いんは、食いすぎと飲みすぎだと思う。食いすぎはのみ会のおつまみの食いすぎ? だと思う。飲みすぎっていうのは、ガッツギアだと思う。あと、ねぶそく。一時にトイレの

ため起きて、その後Kのせいでぜんぜんねれなかった。(うるさ~い) すいみん時間は合計5時間。(8時~1時)

いろいろと問題があったから、もし次きた時(たぶん来ない)はそこを直して、今度こそ頂上に行きたい。箱根で泊まったのが富士山より楽しかった。 A.T君

最初は、富士山は標高が高いだけで大丈夫だと思っていたが、やはり登ってみると酸素がうすくて、とても大変だった。1日目は電車を乗りついで、少し登った。本当は、あまりつかれなかったのだが、雨がふってしまい、うざかった。そして新七合目ご来光山荘に1ぱく。ここらへんは、2800mぐらいなのでまだ高山病にはならなかった。この時明日は1000mも上り1400mも下るのかと思い本当に行けるかという気持ちもあったが、それ以上に登頂するという思いの方が強かったのでまだわからなかった。また今日は5合目から登った。もう森林限界を超えていた。石がゴロゴロしていた火山だからと思う。

夜は3時起きだったがねむくなかったし、ねむれなかった。次の日・・・3時に起きて配られたパンとのみものを飲んだ、けっこう、かんたんだなと思った。食事をすませて、じゅんぴをして4時に出発した。ヘッドライトをつけて登った。夜初めて登ったのでころばないかと心配したが、だいじょうぶだった。後ろをふりかえると、ヘッドライトの光がきれいだった。宝永山の方も見え、上を見ると星空が見えた。オリオン座が見えた。天気予報では曇りのはずだったが星空が見えてよかった。ここから登っていくと山口山荘にとう着。もう東の方があかるくなってきた。日の出が早いなと思った。もっと登った所で日の出をまつことにした。が網干さんが出ますを5回ぐらい言ったけど出てこないで、登ることにした。気がついたころは、もう上がっていた。8合目にとう着。15分きゅうけいした後出発!したところ高山病になった人がいた。この時、自分もこわかったが高山病にならないでよかったのかなと思った。9合目9合5しゃくをぶじにすぎ、とうとう山頂にとう着し、ものすごくつかれていた。そこから剣が峰に登ることにした。ひょう高は、あまりかわらないので、登った山頂は雨がふっていて何も見えなかった。順調に下った。もう1回登ってみたいと思ったが、息がつかかったので、もう少し成長してから登ろうと思った。 M.K君

一日目は5合目から7合目に登っていったけど余裕でした。

でも2日目は3000m級の所まで行くので夜はあまり寝れず不安でした。それに3時半出発ととても早くて驚きました。旧7合目までは順調だったけど、3000mを越えてから酸素がうすくなりちょっとずつ気分が悪くなっていきました。しかし、9合目を山小屋で高山病になりいろいろな人に迷惑をかけてしまいました。でもいろいろな人の協力もあって頂上まで登る事ができました。頂上はとても寒かったけど、下を見おろした景色は絶景でした。下山も安全にできたのでよかったです。

今回の登山はとてもハードであきらめようともしましたが、いろいろな人の協力でクリアすることができたので、協力する事の大切さを学びました。

これからは僕もこの経験を忘れずいろいろな人に協力したいです。

C.N君

ぼくにとって1番つらかったのは、電車に乗っている時と下山している時です。電車がなげいやかという、ひまだからです。下山している時では、頭痛と足のけいれんなどがあっておりときの時間がとてもおそくなってしまいました。

楽しかったこと、おもしろかったことは、登山をしている時と、山荘にいる時と、山頂についたときです。

登山をしているときは「自分は今富士山に登っているんだ」と思うと、山頂はどうなっているのかなと、わくわくしてきました。山荘にとまっているときはカレーを食べている時とベッドの上でみんなと話したりマクラなげをしている時が楽しかったです。

山頂についたときは、楽しかったとかうれしかったよりいちばんさいしょに思ったのは感動でした。きりであまりいいけしきは、みれなかったけどとても感動しました。

K.K君

初の富士山で、山頂まで行けなかったらどうしようと心配だったけど、山頂まで登れてよかったです。でも、頂上についた時に、頭が痛くなりました。全員で、頂上へ行きたかったです。朝日や少しだけ見えた海は、きれいでした。山頂では、晴れていてほしかったです。今度は、晴れている時に、また、富士山に登りたいです。

A.O君

「親子で目指そう富士登山」親御さんからの感想文 提出順

アルプの山行には、これまで長男・長女とも小学生の頃から大変お世話になっていましたが、今回、長女とともに私も硫黄岳と富士山の山行に初めて参加させていただきました。

長女は身体も小さく引っ込み思案でおとなしい性格ですが、後ろから一步一步歩く姿を眺めていたとき、以外にもしっかりとした足取りで体つきも以前に比べて大きく見えました。いつの間にか随分と遅しく成長したなぁと感じました。その小さな体で高山病に苦しみつつも日本一の富士山を登り切ったことは彼女自身の大きな自信と糧になり、立派な大人へと成長していけるものと確信します。

一方、私の方は折角の富士山に子供と一緒にいけるのも最後の機会と思い参加を決意しました。高校時代には山岳部に所属していたものの、それ以降特に運動はしておらず、すっかり体形も変わり、駅の階段も息を切らせる有様でしたので、富士山に登る自信は全くありませんでした。

その後少しづつトレーニングを重ねて（体重も10kg超減！）無事、富士山を登り切ることができ、まだまだこの年でも捨てたもんじやないなと自信がつかしました。

また、高校時代の山岳部は上下関係も厳しく体力まかせに登るような、つらさばかりが記憶に残るものでした。そんな経緯もあり山は遠ざかっていましたが、今回の山行ではいろいろな人と触れ合ったり、景色を堪能しながら登り、高校時代とは違った山の楽しみや素晴らしさを見い出せた気がします。

これまで、二人の子供たちの面倒を見て育ててくれたアルプの皆さまに感謝するとともに、

微力ながら恩返しをしていければと考えています。

(おまけ)

新田次郎の「富士山頂」という本がオススメです。剣ヶ峰の富士山レーダー（昔はこの上に白いドームがあった）を建設するお話しです。

お役所やメーカーとの駆け引きなど、子供には少し難しい点もありますが、実際に自分が見たレーダー跡地を思い出しながら当時の苦労話を読むのも一興かと思います。私と娘は行く前に読んで、二人で勝手に感動してました。

K.Iさん

今回は悪天候の中、これから登る富士山を仰ぎ見ることも出来ず、何となく「よし、これから頑張るぞ!」という気持ちの切替えが出来なくて不安な気持ちのままスタートとなりました。

それでも、どしゃぶりの中、合羽を着込んで出発。子供達からは、雨への不安ではなく、出発できない事への不満の声。文句も言わず、本当に頑張ったと思います。決して広くはない半濡れの山小屋でも楽しく枕投げをしたり、どんな環境にも順応できるんだと改めて子供のパワーを実感しました。うちの子は、山頂を目前に控えリタイアしてしまいましたが、サポートの方にも断念させてしまい、申し訳ありませんでした。

大人数の初心者らを率いての富士登山、順調ではなかった経験がとても貴重なものとなりました。スタッフの皆様にも心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

H.Tさん

富士山が世界遺産に登録された頃から、富士山に登るという事が正洋の七夕の願い事になっていましたが、アルプの皆様のおかげでその願いがかなうことになりました。

富士山ではいろいろな初めての体験がありました。

雨の中を合羽を着て登った事。オリオン座のまたたく夜中にヘッドライトをつけて登った事。東の空が徐々に明るくなっていく夜明けを見た事。普段は布団の中で知らないうちに迎えている夜明けという毎日繰り返し起きている自然の現象を、自然の中でこうして肌で感じる事ができるのも山の魅力だなあと感じます。また、まさに大海原が広がっているかのような迫力ある雲海も圧巻でした。でも、やっと着いた山頂は風雨とガスで何も見えず、寒さにふるえ、また標高差 1400mの下山では足ががくがくになって疲労困ぱいという体験もしました。

子供にとって、楽しい事だけでなく、辛いこと、きついこと、思うようにならないことなども大事な体験なのだと思います。ぎりぎりのところまで体力を使い切る体験、風雨と寒さにふるえる体験、雨の中を登った体験、山小屋でよく寝られなかった体験、これらの体験もみな決して無駄ではなく、子供の生きる力のもとを育む大事な体験なのではないかと思うのです。

富士山を終えて、しばらく山はお休みだなと思っていると、正洋は今度は北アルプスに行きたいと言って、アルプスの山と高原地図の本を買っていました。今、アルプスの地図をながめて山のプランを一人で練っています。こんな風に山への興味が増したのも、アルプでの

体験が大きな影響を与えているように感じています。温かい目で見守り、支えてくださったアルプの皆様、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。 加藤満梨子さん

今回の山登り教室に参加し、たくさんの貴重な経験ができたことをうれしく思っています。自然の中ですごせたこと。大人・年上・年下の子どもたちと年のちがう人たちとすごせたこと。障がいのある・ない関係なく一緒に楽しくすごせたこと。

また、体調を崩しながらも頂上まで登れたことが自信になったこと。そして登れたことはまわりの方々のおかげ、手助けがあったからだ気づけたこと、等々普段の生活ではなかなかできないことがたくさんありました。

いろいろな経験ができたことで少し成長できたのではないかとと思っています。皆さん、ありがとうございました。 M.Nさん

「親子で目指そう富士登山」計5回の山登り、ありがとうございました。

自分も中一の息子も登山は初めてで、ザックも靴も無い状態で不安だらけでした。1回目の丸山は初めて山登りだったので一番きつく感じましたが、景色が良かったので、山歩きも良いものだと思います。生藤山は2回目という事で、前回より楽に登れたと思う。山で食べたスイカとてもおいしかった。こちそうさまでした。三頭山は大分慣れたのか登り下りと少しペースを上げてしまい、帰りの駅の階段で転げ落ちそうになり、後日次回に向けてストックを1本購入。泊まり登山の硫黄岳は、山小屋体験も出来て、山小屋でみんなで飲んだお酒や食事はとてもおいしかった。山頂の景色に感動し、また登りたいと思いました。

いよいよ最後の富士山。今回はあいにくの雨模様。これも良い経験だと思う。山小屋も前回と違い、快適ではなかったが、雨風がしのげる。横になる事が出来る事が、いかに大事かがわかりました。トイレにしても息子はお金を払って使う事をビックリしていました。環境の事や水の大切さをわかったと思います。前回まで元気だった息子も、九合目くらいから頭が重い痛いと言い出し、下山時七合目くらいまで続いていた。その頃には、ひざも痛がっていて、歩くのもやっとの状態でした。親子でストックを1本ずつ使って、やっと下山出来ました。今回のためにストックをもう1本追加していて本当に助かった。計5回の登山で息子もいろいろ学んだと思います。忍耐力だったり、障害のある子と登った時の気持ちだったり今回のはがんばりました。おつかれさま。スタッフの皆様、富士登山までのサポート、ありがとうございました。遠い所からだったり、子供たちの相手だったり、下山時の楽な歩き方を教えてくださったりと、来年は1つ下の娘と参加したいと思っています。その時はまたよろしく願います。 T.Oさん

昨年に続き2年目の参加となりました。スタッフの皆さんには、大変お世話になりました。特に最後の富士山は、我が子海社にとって、深夜からの登山、燕岳で経験した高山病との戦い、さらに初めての雨も重なり、過酷なものであったと想像します。持てる力を使い果たし、初めての痙攣も経験しました。それでも、アルプのみんなと手を取り合い、声を掛け合いながら登頂できたことは、これまでに無い喜びであったようです。また、親として、子供が成

長する姿を傍で見ることができたことは、普段の生活とも異なり格別なものでした。アルプ登山を通し、自然や仲間とのふれあい、登頂の喜び、下山後のお風呂の気持ちよさやビールの美味しさ、全てが良い思い出となり、親子共々、登山が大好きになりました。ありがとうございました。 Y.Kさん

ハイキング報告

★第45回ふれあいハイキング（川口自然公園）（10月2日）

参加者 会員(障害者3、健常者4名)

年齢を感じさせないバランスで楽々通過。弱視のKさんは足下がよく見えないため、足裏で足下を確認しながら、バランス良く端から端まで歩き通した。

今年度最初のふれあいハイキングは、埼玉県川口市からさいたま市（東浦和）にかけて広がる見沼たんぼの一番南東側を歩く計画だ。

東川口駅に全員集合する。今回は、5年半ぶりにYさんも参加となる。南浦和に住むYさんにとって、今回は参加しやすい地元となったことで、参加が実現した。大崎公園周辺は、Yさんがよく行くところということなので、そこの案内をお願いします。



まずは、東川口駅から町中の道路を歩いて川口自然公園に向かう。今日は曇りの予報だったが、青空が広がり、熱くなりそうだ。地図を見ながら歩いて行くと、川口自然公園に到着する。少し大きめの池があり、大勢の人たちが釣りをしている。私たちは藤棚の下のベンチで休憩する。藤が実をぶら下げていた。真ん中が高くなった平均台でバランスを試してみる。Yさんは



川口自然公園内は、葦原などもあり、自然がたくさん残っている。公園内を少し歩いてから、次の大崎公園を目指して歩いて行く。歩いた道は、見沼代用水東縁に沿った道だ。見沼代用水は、見沼たんぼに水を注ぐ大切な川だった。見沼たんぼは、今でも緑豊かな田畑が広がっている。詳しくは、見沼たんぼのホームページをご覧ください。

見沼代用水に沿った道は、桜並木で春は桜を見ながら数時間のハイキングができそうだ。

大崎公園は、Yさんのお膝元。何度も訪れているらしい。ここには、無料で入れる子ども動物園がある。隣にある植物園も無料とのこと。さいたま市は財政豊かなようだ。動物園は、自分が檻に入れられている姿を考えると、動物たちもきっと辛いに違いないと思えてくるので、個人的にはあまり好きではないが、子どもたち

が動物と身近に接することができるメリットもある。今回も大勢の子どもたちが親御さんと一緒に来ていた。レッサーパンダやカピバラ、キンケイなど、動物や鳥、魚、昆虫など、いろんな種類の生き物がいた。



ここで昼食を摂り、次は見沼自然公園に向かう予定だったが、みんなの合意で古い民家を移設した「浦和くらしの博物館民家園」に立ち寄ることにする。昔懐かしい、土間のある家を見て、郷愁に浸る。



次は、最後の目的地、見沼自然公園とさぎ山公園を目指す。時間的にも最も暑い時間となり、Yさんの温度計は31℃を指している。熱中症が心配される。水分補給を忘れないようにする。

見沼代用水東縁に沿った道は、桜並木が続く。見沼たんぼの向こうには、さいたま新都心のビルや浦和のビルが見える。道の横には彼岸花が咲いている。大勢のバードウォッチャーが木の上に双眼鏡を向けていたので、「カワセミがいるんですか？」と聞いたら、「カワセミは川沿いの方でしょう」という。「それでは何か

鳥がいるんですか？」と聞いたら、「小鳥がいるんだよ」とのこと。もうこれ以上聞いても無理だと思い、「あ、そうですか」と言って、みんなの元に急ぐ。オタクの人たちはつれないね。



見沼には、龍神伝説があるそうだが、見沼たんぼに萱で作った竜のモニュメントがあった。

暑い中、がんばって歩き、見沼自然公園を左手に見ながらさぎ山公園を目指す。さぎ山公園も整備されたきれいな公園だ。暑さに耐えかねていたのも、みんなが自動販売機に向かい、冷たいものを飲む。芝生に座り、さらに寝転んで、疲れを癒やす。石川啄木の「不来方のお城の跡の草に寝て 空に吸われし十四の心」という短歌を思い出す。今日は、「さぎ山に今ではサギはいないとな 心配なのは振り込め詐欺だ」というところか。

Yさんがバス停まで行って時間を見てきてくださる。時間に合わせてバス停に行く。暑い中、がんばって歩いたので、たくさん水を飲んでもまだカラカラ。バスに乗り込むとすぐに爆睡。まぶたに浮かぶは、冷えた麦のジュースかな？

見沼たんぼのホームページ：
<http://www.minumatanbo-saitama.jp/>
記：網干

《参加者の感想》

見沼たんぼ、用水があんなに自然溢れる地域であると知りませんでした。また、訪れた3つの公園がそれぞれ自然を残しながら、訪れた人を楽しませる工夫をしている事に感心しまし

た。私の住むすぐ隣の市にまだまだたっぷり自然が残っていたのですね！今日のハイキングは予想外の嬉しい収穫でした。

記：M.S さん

コースタイム

東川口駅(9:50)…川口自然公園(10:20-10:45)…大崎公園(11:30-12:30)…さぎ山記念公園(14:15-14:55)

★第46回ふれあいハイキング(長瀬)(11月6日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)

今回は、11年前に実施した長瀬ハイキングと同じコースを歩く。ただ、当時より2週間ほど早い。今回の紅葉は5分程度だっただろうか？あと1週間から2週間できれいに紅葉するものと思われた。



長瀬駅に集合し、自己紹介をして歩きはじめる。長瀬駅は、宝登山に登る人や岩畳、舟下りを楽しむ人たちでごった返しているが、我々の歩くところは、とても静かで人はほとんどい



ない。喧噪から離れて、静かに自然のみちを楽し

しむことにしよう。

まずは、駅の東側に出て、北桜道を歩いて金石水管橋(かないしすいかんきょう)に向かう。少し歩くと、ヒッヒッヒッとジョウビタキの音がする。早速雄のジョウビタキが出迎えてくれた。まだ、北の国から渡ってきたばかりだろう。

立派な道標を頼りに細い道に入っていく。この橋からの眺めはすばらしい。下流側は順光でくっきり見える。上流側は逆光で、川が光って見える。それぞれ違った美しさを見せてくれる。橋を渡った先には長瀬オートキャンプ場があるが、紅葉した木々があり、とても美しい。



前回は、休憩料を払ってキャンプ場で休憩したが、今回はすぐ隣にある蓬萊島公園でお昼にする。あまり島のように見えないが、ここは荒川に突き出た島に違いなかった。行きと帰り、別の橋を渡った。

公園内を少し歩き、荒川の畔で昼食タイムにする。舟下りの舟が何艘も下っていく。カメラマンの方が、「こっちを向いて」と行っている。船頭さんが、「あの人は一日中あそこにいるので、手を振ってあげてください」という。暇な時間が多いと思うが、舟を見逃したら大変なので、どこにも行かれず居眠りもできないの

で、なかなか大変な仕事だ。



私たちは、昼食を摂り、集合写真を撮ってそこを立ち去る。緑が多く整備された蓬萊島公園をゆっくり歩き、公園の駐車場に行く。今回、2014年2月の片瀬古道以来2年8ヶ月ぶりに参加した KM さんが、疲れて腰が痛いので、ここから引き返して帰ることになる。全盲の旦那さんは、一人でそのままみんなと一緒に歩くことになる。高齢になってもお互いに自立していてすばらしい。



所々紅葉の美しい山里の道を歩いて行く。途中で、舗装道路から離れて、細い土の道を進む。細い道は、春日神社に通じている。神社のすぐ先には長瀬トンネルがある。トンネルの手前に東屋があり、ここからが自然のみちとなる。東屋で休憩して自然のみちを歩く。

木々がまばらなところから岩畳が見える。しかし、こちらの足下は垂直に切れ落ちているようだ。近づかないように注意して岩畳の写真を撮る。

自然のみちが終わると、国道に出る。国道沿

いにどんどん進み、途中から国道を離れ、細い車道を歩く。秩父鉄道の踏切を渡り、荒川にかかる親鼻橋に出る。親鼻橋からの眺めもなかなかすばらしい。



上長瀬駅への道を歩き、駅を左に見て荒川方面に進む。すぐに岩畳かと思ったが、まだ岩と砂の混じる川の畔だった。川ではカヌーをしている人たちがいる。秩父鉄道の電車が鉄橋を渡る。いろいろ楽しめたが、やはり歩きにくいので、元の道に戻る。遊歩道のようになったところを歩き、長瀬駅近くの岩畳に向かう。



岩畳に来ると急に人が増える。せっかくなので集合写真を撮る。そして、人でごった返す商店街を歩いて長瀬駅まで行く。長瀬駅で帰る電車を待っていると、ちょうどSLが入ってきた。C58だ。このSLは休日の1日に1往復しかないのだが、とてもタイミング良く見ることができた。

帰りの電車では、お花畑で降りるところを、間違って秩父駅で電車を降りてしまい一電車遅れてしまったが、西武秩父駅始発の電車に乗

って、みんなで楽しく池袋駅に向かった。

記：網干

コースタイム

長瀬駅(10:45)…蓬来島公園(11:20-12:35)

…長瀬自然のみち入口(13:00-13:10)

…長瀬駅(16:45)



※参加人数不足のためふれあいハイキング(利根川畔)が中止となりました。

個人山行報告

★岩登り講習会(日和田山)(10月23日)

参加者 会員(障害児1名、健常者4名)
会員外(健常者2名)

9月11日に計画していた岩登り講習会が雨で中止になったため、今回、個人山行として



日和田山での岩登り講習を実施した。

今回は、小6の男の子が2人、岩登り初体験の方が2人、経験者が私を含めて3人となった。池袋から一緒に電車に乗ったメンバーと

は、時間を有効に使い車中でザイルの結び方を覚えてもらう。ブーリン結び、8の字結び、マスト結びを練習する。

駅に降り立ち、大勢いる子どもたちの脇をすり抜け、岩場へと向かう。K君のお父さんは、周囲の環境がとても良く、こんなところに住み

たいという。川もあり、子どもの遊び場として最高とのこと。

岩場に着くと、車で来たKさんたち3人がすでに到着していた。岩登り装備を身につけ、まずは女岩南面の初心者向けⅢ級のフェースに行く。ここは、岩登り初体験



の4人も全員クリア。ただ、Y君にはロープにぶら下がるのがとても怖かったようだ。でも



それを克服して、下まで降りてきた。

昼食後は、女岩西面のチムニー(Ⅳ)を登る。果敢に挑戦したY君だったが、今回は途中でやめることにする。また、次ががんばろう。このチムニーは、私以外、全員初めてだったようだが、みんなクリアしていく。

最後は、男岩南面のフェースからクラック(Ⅳ+)を登る。ここも次々にクリアしていく。

今回は、多くのピレイをしてくれたHさんに最後に登ってもらい、上部の確保用のロープなどを回収してもらう。この辺の作業を実体験してもらうことも大切なこと。Hさんには、いろいろなことを学んでもらうと共に、疲れる確保をずっとしていただいて、感謝です。 記：網干

各種連絡事項

▲臨時総会の開催予定

来年度の事業計画を決める臨時総会を下記の通り予定しています。

日時：平成 29 年 1 月 9 日 (土)
10:30~11:30

場所：八千代台公民館 会議室

議案書と詳細は追ってお知らせしますので、ぜひみなさまのご参加をお願いいたします。

△活動紹介映写会開催

活動紹介映写会を右記の通り予定しています。ぜひ都合を付けてご参加ください。

日時：平成 29 年 2 月 25 日 (土)

14:00~16:00

場所：八千代市総合生涯学習プラザ
多目的ホール

☆八千代市市民活動団体支援金

今年度も、「親子で目指そう富士登山」の届け出を行った「八千代市市民活動団体交付金制度」で、17,706 円の支援金をいただくことができました。みなさまのご協力に深く感謝申し上げます。

なお、来年度は「自然と親しむ子ども山登り

教室」を実施しないことと、支援金制度の審査会から、子どもがもっと広く(大勢)参加できる活動で申請するように指摘があったため、この支援金制度への申請は、今年が最後になる予定ですでの、ご了承お願い致します。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)

正会員

2名

編集後記

・理事長のつぶやき

自分や家族が障害を持っている時、その障害を認められずに苦しむより、早く受け入れた方が、比較的気持ちを穏やかに持つことができると思います。しかし、障害を受け入れることは、障害を隠すことのできない重度障害の人に比べて、軽い人ほど受け入れにくい面があると思います。障害があることを隠したい一方で、障害があることを分かってほしいという複雑な気持ちを持つと思います。例えば弱視の人が、レジに並んで支払いするとき、お金がよく見えず時間がかかります。後ろで並んでいる人は、何をやっているのだといらいらし、怒りだすかも知れません。白杖を持っていれば、障害者だと分かるので静かに待ってくれるかも知れません。そんな人たちに、自分の気持ちを分かってほしいと思うのは、とても自然なことです。しかし、白杖を持つと言うことは、自分が障害者であると言うことを周囲の人に伝えることになるため、自分が障害者だということをはっきり認めることになってしまいます。

かつて昭和の時代は、障害があることを恥と

思い、家族は障害者を家に閉じ込めていました。健常者は、障害者と接することが少なく、障害に対する知識も持てないため、そのことが差別を助長してきました。

アスペルガー症候群や発達障害は、まだまだ知られていません。10年近く前ですがある人の甥がいじめに遭っていて、先生もその子をしかるために、いじめを荷担する結果になっていたそうです。その人にアスペルガーの症状を伝えたら、甥はアスペルガーの可能性が高いと分かり、先生に伝えて、その後は甥への対応が変わり、いじめはなくなったと聞きました。東北の学校だったのですが、先生もアスペルガーという障害のことを知らなかったのです。

軽度の障害を持つ人が、複雑な気持ちで揺らぐことは私自身も少しは分かるつもりでいます。ただ、障害を隠すことが、良い結果を生まないこともあり、昭和の時代に戻したくないという思いもあります。

こんなことも、ぜひみなさまと話し合っていたらすばらしいなと思います。

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

